



神奈川

発行 立命館大学
校友会 神奈川県支部
〒221 横浜市神奈川区
台町 9-2 一幸ビル
トア案内 広報担当
(発行 600部)
☎ (045) 312-1321

関西学生リーグ (アメフト)

立命館、悲願の初優勝

	立命館	京大	関学	近大	甲南	京産大	神戸	大体
1. 立命館大学 7勝0敗0分	●	15-6	17-13	16-7	28-0	31-0	35-7	42-7
2. 京都大学 6勝1敗0分	●	6-15	21-0	35-0	31-7	28-10	49-0	54-7
3. 関西学院大学 5勝2敗0分	●	13-17	0-21	24-0	35-0	38-7	53-3	48-10
4. 近畿大学 4勝3敗0分	●	7-16	0-35	0-24	☆	10-8	18-12	33-22
5. 甲南大学 3勝4敗0分	●	0-28	7-31	0-35	8-10	☆	21-6	26-0
6. 京都産業大学 2勝5敗0分	●	0-31	10-28	7-38	12-18	6-21	20-7	21-7
7. 神戸大学 1勝6敗0分	●	7-35	0-49	3-53	22-33	0-26	7-20	24-23
8. 大阪体育大学 3勝7敗0分	●	7-42	7-54	10-48	0-57	17-29	7-21	23-24

関西学生アメリカンフットボールは、立命館大学が初の制覇を果たし、悲願の甲子園ボウル初出場となった。立命館は、関学、京大と並び、3強といわれて久しいが、甲子園に駒を進めたことはなかった。1949年の第4回大会以来、関西優勝は関学と京大が45年間、独占してきたが、今季、立命館はこの壁をついに突き破り、新たな時代の幕開けを告げた。

京大戦では、ボールコントロールに徹し、京大に15分余りしか攻撃権を与えなかった立命館。天才の名をほしいままにする若きエースQB東野が、とかく注目されがちなが、この日のヒーローは何といってもK佐藤。40ヤード級のFG(フィールドゴール)でも楽々と決める成功率100%の活躍で、全得点にあたる5FGを決めた。

続く関学戦は、逆転に続く逆転。第4Q、リードを許していた立命館は、QB東野からエースWR芝原に落ち着いてロングパスを通してゴール前に迫り、逆転のTD。17-13で勝利した。

立命館、接戦の末に法政を破る

甲子園ボウル
(東西大学王座決定戦)立命館大学 vs. 法政大学
バンサーズ トマホークス24 (0-3
14-7
3-6
7-6) 22

学生王座を決める最終戦、学生にとっては憧れの大会となる伝統の一戦、甲子園ボウル。第49回大会は、12月18日、快晴の甲子園球場に、約3万8千人の大観衆を集めて行なわれた。関西代表は、創部42年目にして、甲子園初出場の立命館大学バンサーズ。厚かった京大、関学の壁を破って悲願のリーグ優勝を果たしての出場。関東代表は、2年ぶり3度目の出場となる法政大学トマホークス。前回出場の第47回大会は京大に17対7で敗戦。第27回大会では関学を相手に初出場優勝という快挙を遂げているだけに、何とか22年ぶりの優勝を狙いたいところ。スタンドは、地元ということもあって、試合開始前から立命館の応援で埋めつくされた異様なムード。

試合は、東西で今季最もアスリートがそろっていると言われるチーム同士の戦いだけに、ランプレーの応酬、ときおり飛び出すパスプレーが小気味よく、接戦に続く接戦のシーソーゲーム。終わってみれば、第4Q、1分10秒に立命館、エースQB東野が投げたSE芝原への50ヤードTDパスが決勝点。法政も粘り強くITDを返して24対22と追いつけたがわずかに点おぼえず、立命館大学が悲願の初出場優勝を達成。年間優秀選手に贈られるミルズ杯、甲子園ボウルの最優秀選手賞はともに立命館の2年生QB、東野稔が受賞した。

1995年(平成7年)1月16日(月曜日) 第49回

アメリカンフットボール
東西学生オールスター対抗
戦「カレッジボウル」(15
日・川崎球場) 大学四
年生の東西オールスターチ
ームによる対戦は、関西が
38-35で勝ち、対戦成績を
3勝9敗とした。

関西がQB川上立命大
から門脇(立命大)への連続
TDパスで序盤をリードし
た。後半に入って、関東も
秋山(日大)のインターセ
プトTDなどで流れをつか
み、点の取り合いとなった。
第四クォーターには関東が
石山(東海大)の二本目の
タッチダウンで逆転した。

手が逃げ、
手には川上が
控えQB有終
○ MVPに輝いたのは
立命大のQB川上。正
確なパスを次々と決め、同
じ立命大・門脇への三本の
TDパスをはじめ、パスで
275ヤードを稼ぎ出す活躍
ぶりだった。初の大学日本一
に輝いた立命大の最上級生
だが、今季は三年生の東野
の陰に隠れてほとんど出番
はなし。しかし学生生活最
後の試合で実力を十分に発
揮し、「優勝もできたし、
言うことがない年だった」
と満足そうだった。

見す・・・中国

新聞

12月14日 水曜日
1994年(平成6年)

Y SHIMBUN

40 © 經濟新報社 1994 年

發行所
読売新聞社
東京都千代田区大塚1-7-1
郵便番号 100-55
電話 (03) 3242-1111

この世で怖いものは、ナメク
ジと洞くついなさうだ。

「洞くつは怖いけれど好き。
何十万年もかかってできた空間
に自分が初めて入る時の気分は
最高。ただ、何かあれば私の責
任。隊長をやつて洞くつ探検に
はだいぶ億障になりました」

高校時代から探検家の故・植
村禮二らの本で探検に興味を持

顏

中国で世界最大級の縦穴洞くつを
発見した立命館大遠征隊の隊長

河合 明子さん

つ。大学に入り、冷やかして探検部の部署をのぞくと、海外遠征から帰ったばかりの先輩がいい顔をしていた。

「よし、私も同かでかいこどをやつてやる、と」。ふだんはどきどき覚めているが、自分でこれと思うと情熱的になる。性格がムウムク頭をもたげた。

中、高校はバレーボールばかりで、

九月に華南地方に遠征、まる
 一か月かけて、九つの洞くつに
 ロープ一本にすべてを託すSR
 士という技術で降りた。

校 友 の 近 況

◎ 勝田名譽支部長

昨年5月2日～5日、銀座松屋前「サエグサ画廊」にて行われた個展に出品した3点の絵画が宮崎県立美術館(Ｈ7年10月オープン)所蔵品として買いあげられた。益々のご活躍が期待される。

作品名・・・苦惱(10号)、公園の秋(100号)
夜想曲(100号)

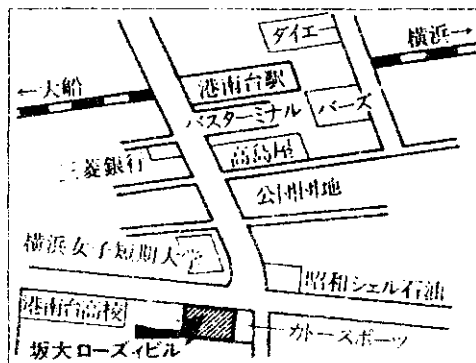
◎ 山本徳子先生・治療院を開院される！

支部相談役の山本徳子(28文卒)さんが、昨年10月
津南台に治療院を開院された。

- ・ところ：〒233 横浜市
港南区港南台9-24-3
坂大ローズビル201号

- TEL :
045 (822) 8 9 3 5

- ## ● 紹介予約制



(JR京浜東北線港南台駅下車徒歩10分)

山本徳心治療院
山本 徳 心

1994年(平成6年)12月27日(火曜日)

官房長に石井氏

科学技术厅

田中真紀子科学技術庁長官は二十七日の閣議に、新欣樹官房長が通産省に異動し、後任に石井敏弘科学技術政策局長を充てるなどの人事を語り了承を得た。二十八日付で発令する。特殊法人の見直しをめぐる新官房長の発言をうけた事実上の更迭。石井局長の後任には、落合俊雄原子力安全局長を昇格させる。



石井 敏弘氏

術庁入庁。宇宙企画課長、研究開発局長などを経て、平成4年7月から科学技術政策局長。55歳。

1995年(平成7年)1月10日 火曜日

総理府次長に高岡氏

村山富市首相は九日、総
理府次長に日本學術會議事
務局長の高岡完治氏を充て
る人事を内定した。十日の
閣議で了解を得て、同日付
で発令する。高岡氏の後任
には、総理府管理室長の石
和田洋氏を起用する。



高岡 宪治氏 (たかおか・か
んじ) 立命館

員会事務局
長、総理府官房審議官を経て93
年6月から日本学術会議事務局
長。55歳。

每日新聞

ライスボウル
(日本選手権)

松下電工初V

立命大の猛攻かわす

立命大
000
020
0014
73333
16計14
獲得P142
187R82
更R
20
新15

松下電工

日本舊手榴初の関西勢同
士の対戦は、ともに守備が
堅くロースコアの接戦にな
ったが、松下電工は一点を
追う第四クォーター残り41
秒、村井が決勝FGを決め
て逃げ切った。

先手を取ったのも松下電
工。第一クォーター6分53

秒、QB藤原からTE高松へのTDパスが通った。第二、第三クォーターに村井のFGで加点。守備陣も立命の攻撃を第三クォーターまで無得点に抑えた。

立命は第四クォーターに猛反撃。RB中村友のTDランに続き、8分21秒にはQB東野がSE芝原への両点TDパス。佐藤正のトライ・フォア・ポイントのキック成功で14-13と一度は逆転したが、反攻に転じるのが遅過ぎた。

1月28日(土)新年会が横浜高島屋ミーティングサロンにて行われた。校友72名(予定)と家族5名の出席で、時間のたつことも忘れ、楽しいひと時を過ごした。

懇親会に先だち、立命出身の作家・正延哲士氏の話があった。

正延哲士氏略歷

1931年高知県生れ。1952年の第23回血のメーデーにはじまり、60年安保に続く激流の中で学生運動にまき込まれ文学部哲学科を中退。

その後、高知放送記者となり、「博士頭芦田主馬太夫」「日本叛乱伝説」等の著書で作家生活に入る。代表作「最後の博徒」正・続は東映で映画化され、「奈落と花道」は東京タイムスに連載される。その他著書多数。

最新作

「阿倍仲磨」三一書房

1994年12月15日初版発行

定價 2,200 円

「1月3日の出来事」・・・ライスボウル（東京ドーム）

- ★ 朝 8:00 すぎ・・・チーム席入場券(田中幹事長から12月22日、27枚預か
る)が事前にも全部予約を取ることができなかったの、ドーム前でダフ
屋をしなければと家を出る。
- ★ 10:00 ドーム着。21と22番入口の中間で支部校友旗を広げる。入口では
数百人の列ができる。
- ★ 10:30・・・立命館スポーツ編集局がインタビューに来る。
立命館放送局がビデオ撮影に来る。インタビューの最後に「パンサーズに
一言」と言われたので、こぶしをあげて「フレー！フレー！パンサーズ
！」とエールを送る。取材の学生に気合が入っているとびっくりされた。
- ★ 11:00・・・千葉県支部の角野幹事長が入場券(千葉県支部割当90枚)が
売れ残ったので、1枚500円で6枚、ダフ屋に売ってきたとボヤキなが
ら前を通る。
- ★ 11:00～12:00・・・20数人の校友、学生が次から次へ入場券を売ってく
れと来る。予約のある方だけと断ったが断り切れなく売る。足りなくな
る。ダフ屋から不足の入場券を4枚買う。関東大学アメフト連盟理事に
入場券とお金の交換を見られてダフ屋をやってはいかん！と注意される。
- ★ 12:00・・・支部幹事の村田さんが現われる。入場券入手予定のTさんに
1時過ぎまで待っても会えず、4000円のチケットを売り場で買って入場。
- ★ 13:20・・・Tさんと会えず、尾崎さんと2人で入場。ダフ屋から買った
チケットが松下電工のチーム席券。何とか立命の応援席へたどり着くと
同時に試合開始。支部旗を飾ることも、校友を探すことも出来ず。(S. H)

※※※ ヨコハマボウル ※※※

- ・期日 6月4日(日) 予定 ・場所 横浜スタジアム
・出場チーム 関西(立命、京大) 関東(法政、日大) ・予定

全関西「逃げ切り勝ち」

関
 西 38
 14147
 1470
 35 関
 東
 だが、残り時間がなく、関
 西 切つて。漫遊を続

